

【本文】

超世無上に攝取し
ちようせむじよう せつしゆ

選 択五劫思惟して
せんじやくごこうしゆい

光 明寿 命の誓願を
こうみょうじゆみょう せいがん

大悲の本としたまへり
だいいほん

【意識】

阿弥陀如来様は、過去・現在・未来の世を通じて、最上のお救いを私たちの為に選び取って下さいました。

このお救いの為に、気の遠くなるような長い時間をかけてお考えになられたのです。

そして、限りない光でどこまでも照らし、限りない命でいつまでも私たちと共にあってください。救いの大きいなる慈悲の根本とされました。

【私の味わい】

人間には他を慈しむ心があります。特に肉親、近い人(時に動物も)であれば尚更です。しかし、上記の「慈悲」とは、「慈」と「悲」と書きます。元々は、インド由来の言葉で、「慈」がカルナー(相手の幸せを願う心)、「悲」はマイत्री(自分のことのように相手に共感する心)が翻訳されたのが「慈悲」なのです。

人間の慈悲は小慈悲、阿弥陀様の慈悲は大慈悲と言われます。人間のそれは、どんなに優れていても身近な人に限定されます。一方、阿弥陀様の慈悲とは、分け隔てがないという意味で「大」なのです。全ての人の親になって共に人生を歩み、幸せにしたいと願い、幸せにすると誓ってその通りになさるのが仏様、阿弥陀様の救いなのです。

幸せの方向性も違います。世には、無病息災、貯蓄、学業や仕事、愛情の成就等々を幸せと呼ぶかもしれませんが。そこには、自分にとって、身内の者にとって思い描いた通り事態が運ぶこと、という幸せになっているのではないのでしょうか。

しかし、阿弥陀様の幸せは、「南無阿弥陀仏」を私たちに至り届かせることです。

これは、一見私たちにとつて不本意かもしれませんが。ただ、そのいわれを聞いてみると、成るほどそうでありましたかと手が合わさるのです。私が、身内が、そして全ての人が恐れる死を受け止める極楽浄土の世界がある。死んで別れるのではなく、また必ず出会わせて頂く地平がある。さらには、今の生活の喜怒哀楽を、我がことのようにお感じになつて下さる仏様が私の側にいらっしゃる。生きてよし、死してよし、と。(悠水)